

# I. 概 要

## 1. 視察概要

### (1) 目 的

2005年度、北陸経済連合会と北陸環日本海経済交流促進協議会（北陸AJEC）は、第2次中期アクションプランを策定中である。その検討のポイントは、北陸を通じての「物・人の流れ」をいかに発展させるかであると考えている。

国際物流は、2004年の世界主要港のコンテナ取扱量の上位10港のうち5港が東アジア地域の港湾（香港、上海、深圳、釜山、高雄）となっている。同地域における人・モノの物流施設の整備は、地域物流はもちろん国際物流を考えるうえでも重要な要素となっている。

北陸では、毎年、韓国との経済交流促進のため北陸（日本）・韓国経済交流会議を開催しており、第6回の同会議が韓国慶尚北道、慶州市で開催された（7月19日～21日）のを機に、当連合会のアクションプラン策定の参考として北東アジアの物流の拠点を目指し、国策としてインフラ整備をはじめさまざまな施策を打ち出しているときいている韓国の実態を、従来の感覚との違いを直に肌で感じることを目的に、同国の物流施策の一つである釜山新港等の視察を実施することとした。

### (2) 実施日

平成17年7月22日（金）～23日（土）

### (3) 訪問先と調査項目

#### ・日本通運株式会社 釜山駐在員事務所

（ロッテホテル会議室にて福原久泰所長より説明）

韓国の物流施策について——釜山新港を中心に港湾・物流ハブ

#### ・甘川物流センター

（ロッテホテル会議室で韓国MCCロジスティクス株式会社太田泰司代表理事より説明を受けたあと、同社の物流倉庫建設現場を視察）

同センターの事業内容について（日本と東アジアにおける国際物流の活用メリット、事業可能性等）

#### ・釜山新港

（PR館で釜山港湾公社Gyou-Ho JIN Marketing Team Managerより説明を受けたあと、建設現場を視察）

釜山新港、釜山・鎮海経済自由特区（FEZ）の概要、韓国の諸政策

#### (4) 視察を終えて

##### ○視察結果の総合対策委員会「東アジアの経済発展を視野に入れた北陸地域戦略の方向性に関する調査」専門委員会への反映

第2次中期アクションプラン策定の一助とすることを目的に設置された専門委員会に、今回の視察会について報告した。その結果、同委員会の報告書で、当面は釜山港の活用が必要であるとされ、具体的取り組みが重点施策メニューとして盛り込まれた。

取組内容	当面は、韓国航路・釜山港の活用を進め、釜山トランシップによる国際物流及び国内配送ネットワークの形成を図る。コンテナ貨物については北陸の拠点港の集約化を含めた検討を行い、将来的には直行便の導入、効率的な運営、物流関連施設の整備、北陸の各都市からのアクセス向上（高速道路アクセス道路整備等）を図る。
施策メニュー	○ユーザーの視点に立ち、物流関係者の協議を踏まえたコスト・リードタイム・サービス面での実現可能性のあるケーススタディの実践 ○釜山トランシップによる国際物流及び国内配送ネットワークの形成

(報告書より抜粋)

##### ○視察を終えての印象

韓国政府の国運を賭けた国家プロジェクトの規模の大きさとそのスピードを肌で感じる事ができた視察であった。日本においてもスーパー中核港湾という政策が出てきたが、四方が海に囲まれている日本の港湾は分散型にならざるを得ないのではないか。その中で、いかに機能を分担し効率化を図るかが課題であるように思う。

加えて、日本は将来の国や地方の在り方を描く構想力、実行力において、ダイナミズムに欠けてきたのではとの思いを深くした。今一度、我々の地域をどのような地域にしたいのか、夢のある将来を思い描いてみる必要があるのではないだろうか。

今回、国際貨物の流れをみると、1国家1物流拠点という体系であったものが、一つの物流拠点から多国家に配送する「地域拠点グローバル物流体系」に変わりつつあると感じた。そのなかで、東アジアの動きをみると、「日本のなかの北陸」ではなく、「東アジアのなかの北陸」はどうあるべきかという広い視点にたつてものごとを考えることが重要であるとの感を強くした。

北陸には、日本海を介して古くから対岸諸国との交流の窓口であった歴史がある。今後も人・モノが盛んに行き交い、当地域が発展することを期待するものである。

以 上